

# 岡山県感染症週報 2023年第10週 (3月6日～3月12日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

岡山県は『食中毒(ノロウイルス)注意報』発令中です

## ◆2023年 第10週 (3/6～3/12) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第9週	2類感染症	結核	2名 (20代 男 1名、60代 女 1名)
	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1名 (70代 男)
		梅毒	2名 (50代 男 1名、60代 男 1名)
第10週	2類感染症	結核	4名 (50代 男 1名・女 1名、70代 男 1名、80代 女 1名)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名 (40代 男)
		梅毒	2名 (30代 男 1名、40代 男 1名)
	新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	959名

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
99	126	104	107	124	128	81	71	63	56

ソーシャルディスタンス  
・マスク・手洗い・換気!



©岡山県「ももっちと仲間たち」

### 【第11週 速報】

○新型コロナウイルス感染症 283名の発生がありました (3月13日～15日)。

ワクチン接種も  
大切!



©岡山県「ももっち」

- 新型コロナウイルス感染症**は、2023年第10週に959名の報告があり(第9週は1,126名)、県内での2020年からの累計報告数は489,206名となっています。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
- 梅毒**は、2023年第10週までに38名の報告がありました(2022年の同時期:33名)。2022年の年間報告数は県内で197名、全国で12,966名(2023年1月5日時点)であり、1999年の感染症法施行以降で最多でした。特に全国の年間報告数は従前の最多数を大幅に超えました。2023年の全国の発生状況は、第9週までの累計報告数が2,268名(2023年3月8日時点)であり、最多であった2022年の同時期:1,787名を上回っています。前年に引き続き多くの報告があり、注意が必要です。詳しくは[コラム「梅毒\(性感染症\)に気をつけましょう！」](#)をご覧ください。
- インフルエンザ**は、県全体で1,037名の報告があり、前週から増加しました(定点あたり8.21 → 12.35人)。岡山県は「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、岡山市(24.45人)、倉敷市(13.44人)、備中地域(11.58人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[『2022/23年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!』](#)」をご覧ください。
- 感染性胃腸炎**は、県全体で250名の報告があり、前週とほぼ同数でした(定点あたり4.48 → 4.63人)。地域別では、岡山市(6.50人)、美作地域(6.17人)、備前地域(5.80人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は「**食中毒(ノロウイルス)注意報**」を発令し、食中毒予防を呼びかけています。県内の発生状況など、詳しくは「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[『2022/23年 感染性胃腸炎情報』](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↗	★★	RSウイルス感染症	↘	★★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★
感染性胃腸炎	↗	★★	水痘	↗	★
手足口病	↘	★	伝染性紅斑	↘	
突発性発疹	↗	★	ヘルパンギーナ	↘	★
流行性耳下腺炎	↗	★	急性出血性結膜炎	↗	
流行性角結膜炎	↗	★	細菌性髄膜炎	↗	
無菌性髄膜炎	↘		マイコプラズマ肺炎	↗	
クラミジア肺炎	↗		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↘：減少 ↓：大幅な減少  
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減  
 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)  
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

## 風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

### <妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。  
 県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

### <1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2025年3月31日まで)。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

#### [市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長  
されます!

岡山県の2019年4月～2022年11月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、33.4%と未だに低い状況です!  
 CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう!

[風しんの追加的対策について \(厚生労働省\)](#)  
[風疹に関する疫学情報 \(国立感染症研究所\)](#)  
[“風疹ゼロ”プロジェクト \(日本産婦人科医会\)](#)



# 今週の注目感染症

## ★新型コロナウイルス感染症

### ●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。予防接種が進められており、2023年3月14日までに全人口の80.3%が初回接種（1・2回目）を完了しました。昨年9月からは初回接種を完了した12歳以上を対象にオミクロン株対応2価ワクチンの接種が進められており、接種率は44.3%（高齢者においては75.3%）となっています。また、接種は幅広い年齢を対象としており、小児（5～11歳）への追加接種（3回目（3月10日からオミクロン株対応2価ワクチンの接種が可能となりました））の他、乳幼児（6か月～4歳）への初回接種も行われています。詳細は岡山県ホームページ『[新型コロナウイルスワクチンについて](#)』を参照ください。

### ●症状

現在日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と、従来流行していた株（デルタ株など）と比較し短くなっています。また、上気道で増殖しやすい特性から、従来株に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産科婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。なお、り患後症状（いわゆる後遺症）については、こちらをご覧ください。→ [罹患後症状のマネジメント・第2.0版（2022年10月14日発行）](#)

### ●報告方法について

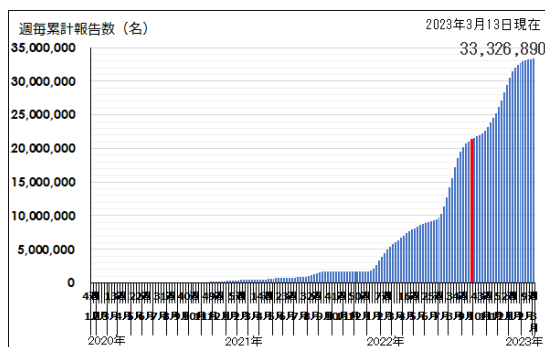
2022年9月26日から全数把握の方法が変更されました。全数届出対象者は65歳以上の者等に限定され、対象者以外は検査キット陽性者登録センター等への登録制になりました。

### ●発生状況

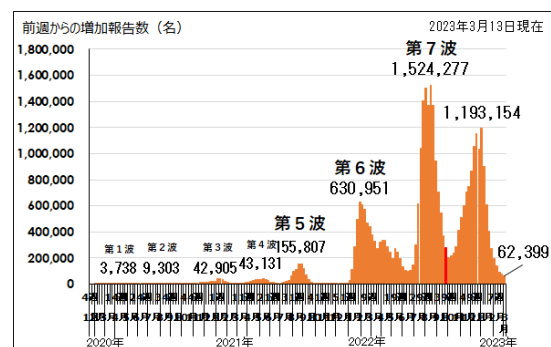
#### ・全国

2023年3月15日0時現在まで、国内感染者は累計で33,346,529名、国内死亡者は73,334名、また、同時点における重症者は119名となっています（厚生労働省ホームページより）。

全国の新規感染者数は減少傾向が継続し、昨夏の感染拡大（第7波）前の水準を下回る状況となっていますが、減少幅は小さくなってきています。重症者数および死亡者数は下げ止まりの傾向が見られます。今後の見通しとして、横ばい傾向が続くことが見込まれていますが、一部の地域では3月末に向けて増加に転じる可能性も指摘されています。ワクチン接種および感染により獲得した免疫の減衰、変異株（BQ.1系統等）の置き換わりの状況、不十分な換気等の影響が注視されます。また、季節性インフルエンザとの同時流行や他の呼吸器ウイルス感染症にも注意が必要です。

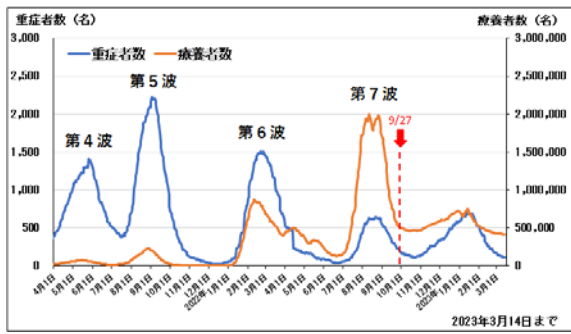


全国 週毎累計感染報告数 厚労省 HP より  
(2023年第10週まで(～2023/3/12))

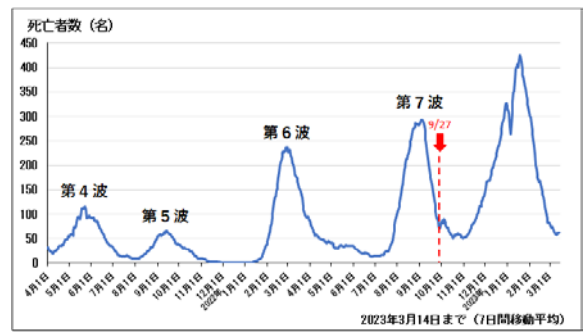


全国 週毎増加感染報告数 厚労省 HP より  
(2023年第10週まで(～2023/3/12))

※全数把握方法が変更された2022年第39週の報告数は赤で表示



全国 重症者数・療養者数の推移  
(厚生労働省オープンデータより(2023年3月14日まで))



全国 死亡者数(7日間移動平均)  
(厚生労働省オープンデータより(2023年3月14日まで))

全国(岡山県含む)の直近の年代別新規陽性者関係の情報は次をご覧ください。

[第118回アドバイザリーボード 資料2-2](#)

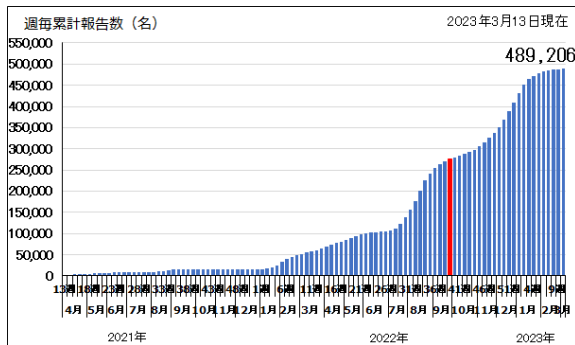
[〈参考〉過去の年齢階級別発生状況等ははこちら\(2022年9月20日まで\)](#)

・岡山県(最新情報)

2023年3月16日0時現在まで、岡山県の感染者は累計で489,489名、死亡者は845名(3月9日～15日までの1週間で7名増加)となっています。医療機関・高齢者施設でクラスターが発生しています。直近1週間の新規感染者数は、第2週以降、減少傾向が継続していますが、減少幅は小さくなってきています。死亡は報告が継続しています。早期のワクチン接種とともに、基本的な感染防止策(体調が悪い場合には外出を控える、手洗い等の手指衛生、3密(密閉・密集・密接)の回避、状況に応じたマスクの着用、換気など)の徹底に留意しましょう。混雑した場所や感染リスクの高い場所へ外出する場合は、感染防止策をより一層徹底しましょう。詳細は岡山県ホームページ『[県民・事業者の皆様へのお願い\(2月22日改訂\)](#)』をご覧ください。

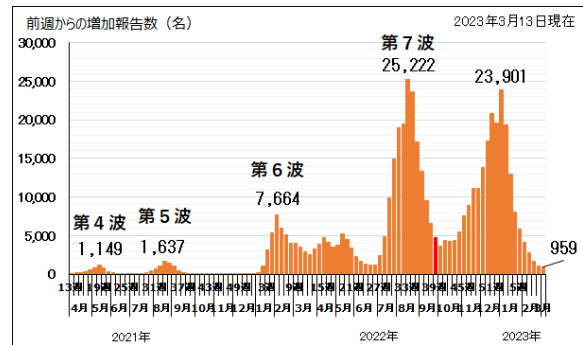
2023年第11週速報 283名 年齢階級別発生状況一覧表

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
38	36	33	38	43	35	17	15	20	8

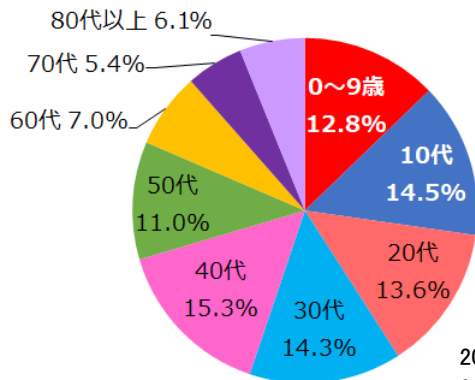


岡山県 週毎累計感染報告数(2023年第10週まで)

※全数把握方法が変更された2022年第39週の報告数は赤で表示

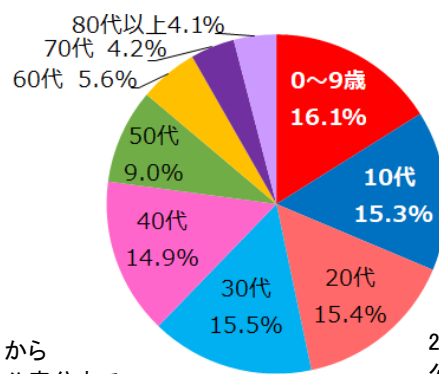


岡山県 週毎増加感染報告数(2023年第10週まで)

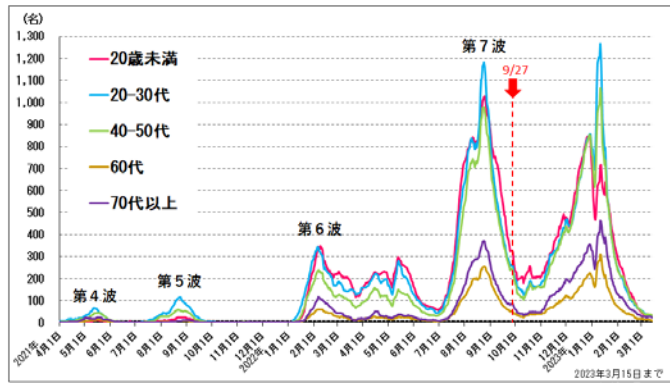


2022年9月27日から  
2023年3月15日公表分まで

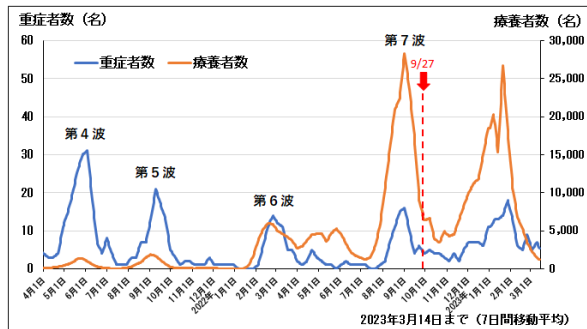
岡山県 年齢階級別累計割合



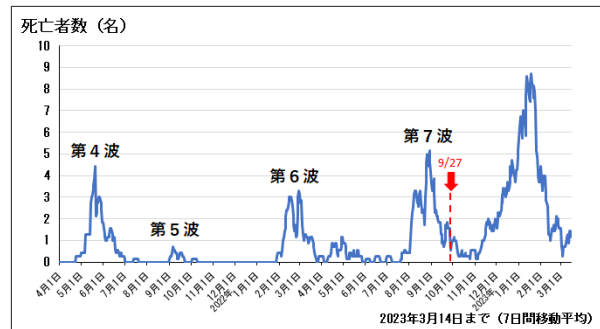
2022年9月26日  
公表分まで



岡山県 年齢階級別発生状況(7日間移動平均、2023年3月15日まで)



岡山県 重症者数・療養者数の推移(7日間移動平均)  
(厚生労働省オープンデータより(2023年3月14日まで))



岡山県 死亡者数(7日間移動平均)  
(厚生労働省オープンデータより(2023年3月14日まで))

## ＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

**接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。**

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

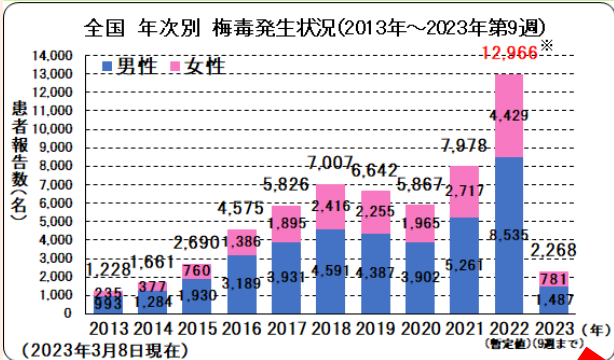
[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)  
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

# 梅毒（性感染症）に気をつけましょう！

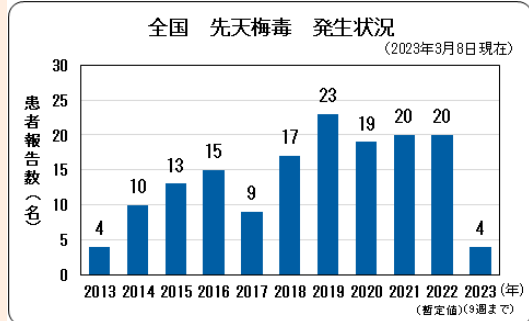
2022年の梅毒の患者報告数は、岡山県、全国共に1999年の感染症法施行以降で最多となりました。特に全国では従前の最多数を大幅に超えました。今年も前年に引き続き多数報告されています。[先天梅毒](#)の発生などに注意が必要な状況です。

☆梅毒等性感染症の症状・診断等の情報は [こちら](#) ⇒ [性感染症（国立感染症研究所）](#)

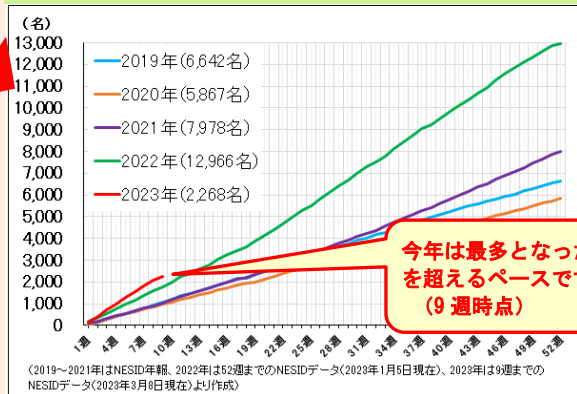
## 全国 年次別発生状況 (2013年～2023年第9週) 2023年3月8日現在



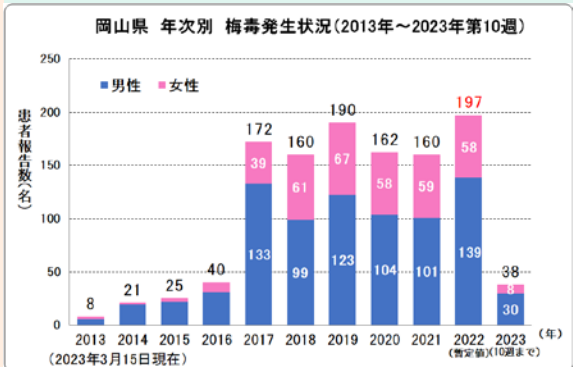
※男女別合計との差は情報不足の報告を含むことによる。



## 全国 年次別・報告週毎累積 (2019年～2023年) 2023年3月8日現在

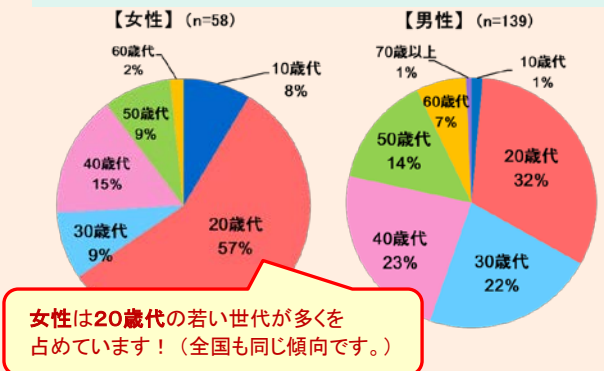


## 岡山県 年次別発生状況 (2023年第10週まで) 2023年3月15日現在



丘疹性梅毒疹(左)・梅毒性バラ疹(右)  
日本性感染症学会 HP より

## 岡山県 性別・年齢階級別発生状況 (2022年) 2023年3月15日現在



岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

- \* 岡山県の保健所(岡山市・倉敷市を除く)では、梅毒以外にも HIV・性器クラミジア・B型肝炎・C型肝炎の検査も同時に受けることができます。(岡山市・倉敷市の検査はこちら)
- \* 確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3か月経過後に検査することをおすすめします。
- \* 電話での事前予約が必要です。
- \* 新型コロナウイルスの影響で中止となる場合があります。

○検査の日時などは [こちら](#) ⇒ [検査について知りたい・検査を受けたい\(健康推進課\)](#)  
○梅毒予防動画は [こちら](#) ⇒ [梅毒対策\(健康推進課\)](#)



梅毒トレポネーマ  
(国立感染症研究所 HP より)

## インフルエンザ週報 2023年 第10週 (3月6日～3月12日)

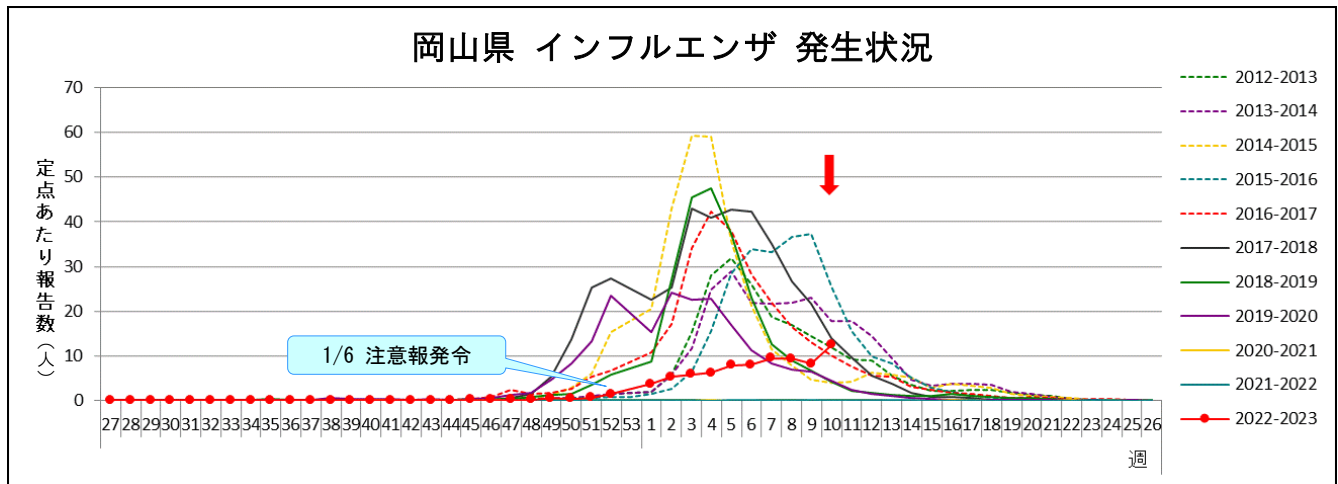
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

## 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で1,037名（定点あたり12.35人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が41施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者4名の報告がありました。

## 【第11週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が20施設でありました（3月13日～15日）。



インフルエンザは、県全体で1,037名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり8.21 → 12.35人）。岡山県は「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、岡山市（24.45人）、倉敷市（13.44人）、備中地域（11.58人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況に注意するとともに、体調管理にも留意し、感染予防に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

## ◆インフルエンザの流行シーズンです！ 感染に注意しましょう◆

（新型コロナウイルス感染症の流行も踏まえた対応をお願いします。）

## 【予防と対策】

## ○基本的な感染防止策の徹底

- ・状況に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施
- ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入換え
- ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける

## ○健康的な日常生活

- ・十分な休養、バランスのとれた食事

## ○あらかじめの備え

- ・インフルエンザワクチンの予防接種
- ・新型コロナウイルス抗原定性検査キット（「体外診断用医薬品」もしくは「第一類医薬品」）や自宅療養に必要な解熱鎮痛薬等の購入

## 【発熱等の症状が出た時は】

## ○外出を控える

## ○周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！

## ○水分を十分にとり、安静にして休養をとる

- ⇒ 医療機関の受診に当たっては、ご本人の重症化リスクに応じた対応をお願いします。詳細は岡山県ホームページ『[インフルエンザ対策について](#)』をご覧ください。



© 岡山県「ももっち」

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1,037	➡	備 中	患者数	139	➡
	定点あたり	12.35			定点あたり	11.58	
岡山市	患者数	538	➡	備 北	患者数	38	➡
	定点あたり	24.45			定点あたり	6.33	
倉敷市	患者数	215	➡	真 庭	患者数	12	➡
	定点あたり	13.44			定点あたり	4.00	
備 前	患者数	82	➡	美 作	患者数	13	➡
	定点あたり	5.47			定点あたり	1.30	

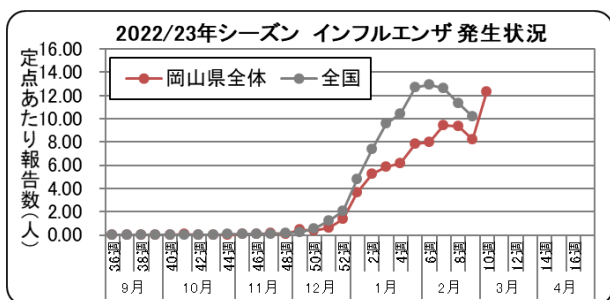
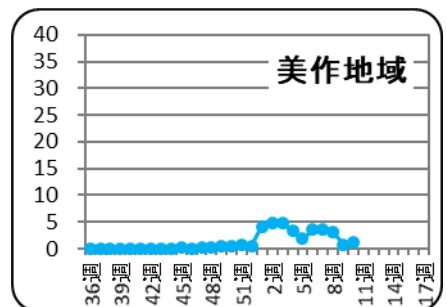
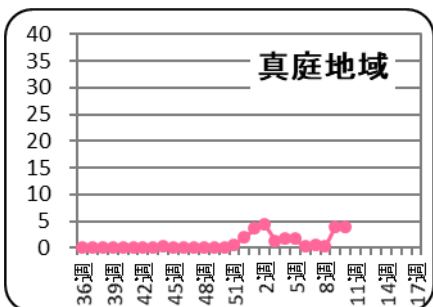
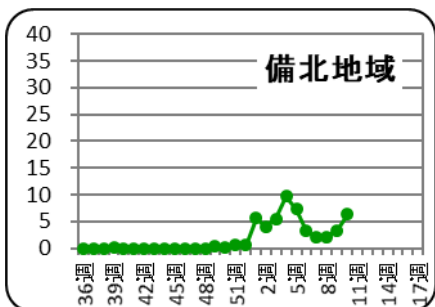
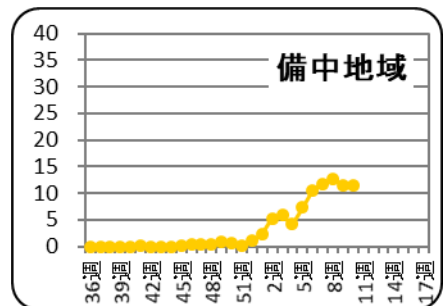
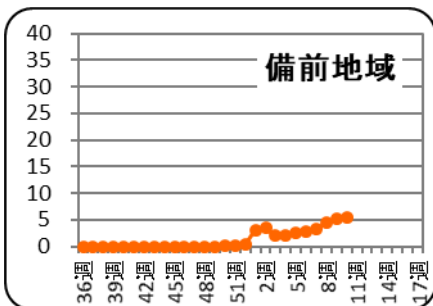
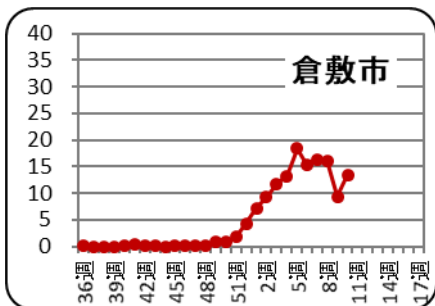
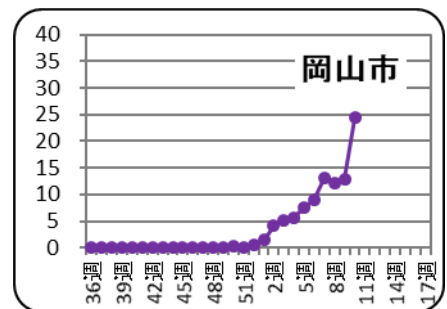
【記号の説明】 前週からの推移    ⬆️ : 大幅な増加    ➡️ : 増加    ➡️ : ほぼ増減なし    ⬇️ : 大幅な減少    ⬇️ : 減少  
 大幅 : 前週比 100%以上の増減                      増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0



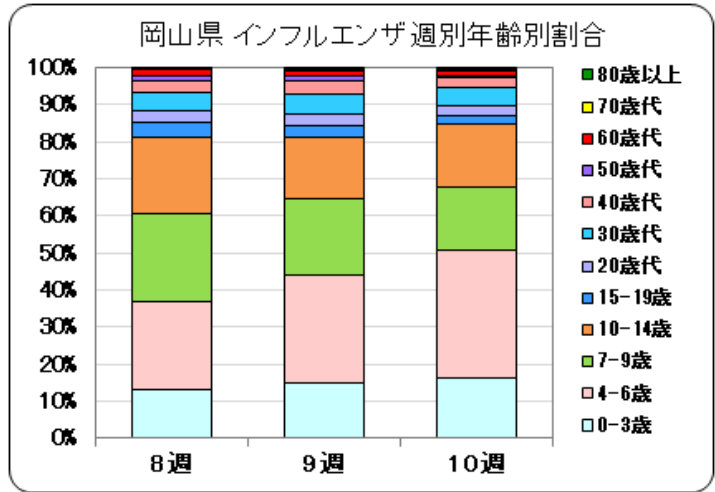
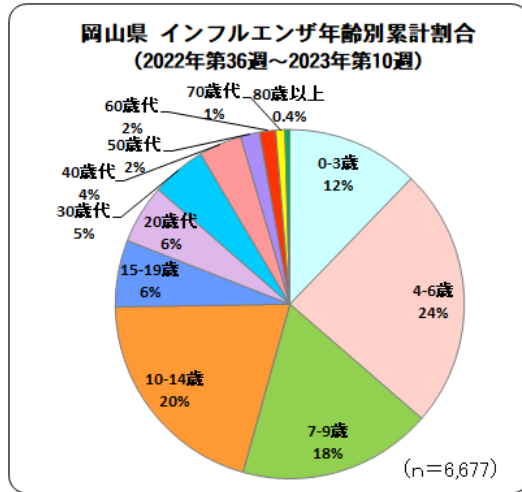
全国集計 2023 年第 9 週 (2/27~3/5) 速報値によると、全国の定点あたり報告数は 10.17 人となりました。都道府県別では、石川県 (33.77 人)、岩手県 (33.37 人)、富山県 (26.25 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。30 都道府県で前週の報告数から減少しました。

[インフルエンザの発生状況について \(厚生労働省\)](#)



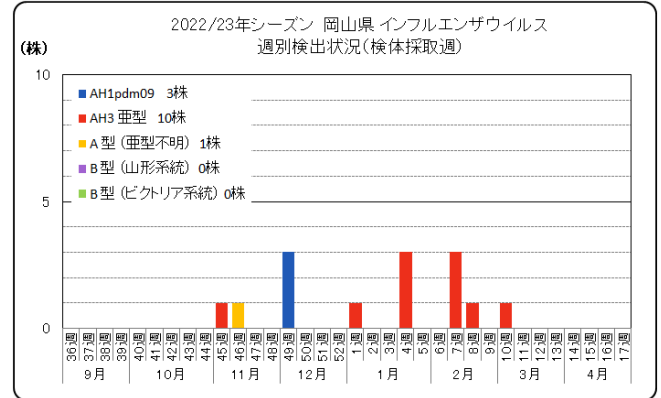
## 2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、以下のとおりとなっています。



## 3. インフルエンザウイルス検出状況

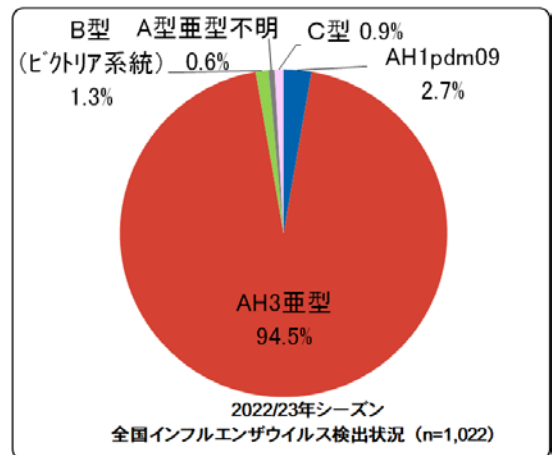
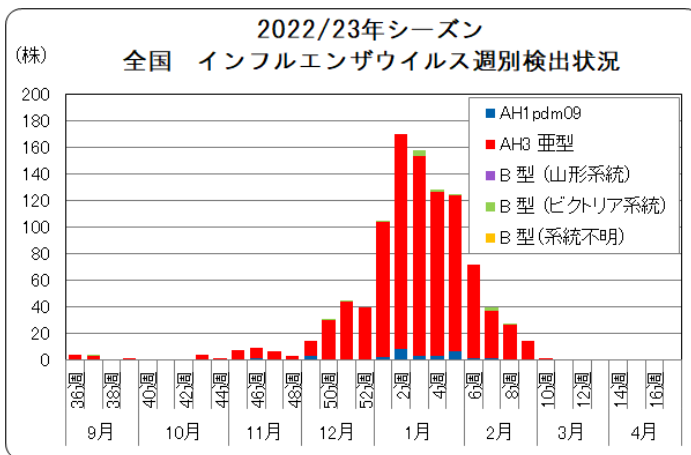
2023年第10週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは1株（詳細は下表参照）でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは14株で、その内訳は、AH1pdm09が3株、AH3亜型が10株、A型（亜型不明）が1株となっています。



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH3亜型	2023年第10週(3/6～3/12)	2023/3/9	岡山市	小学生	女	

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が28株、AH3亜型が966株、B型（ビクトリア系統）が13株、A型亜型不明が6株、C型が9株となっています（3月14日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

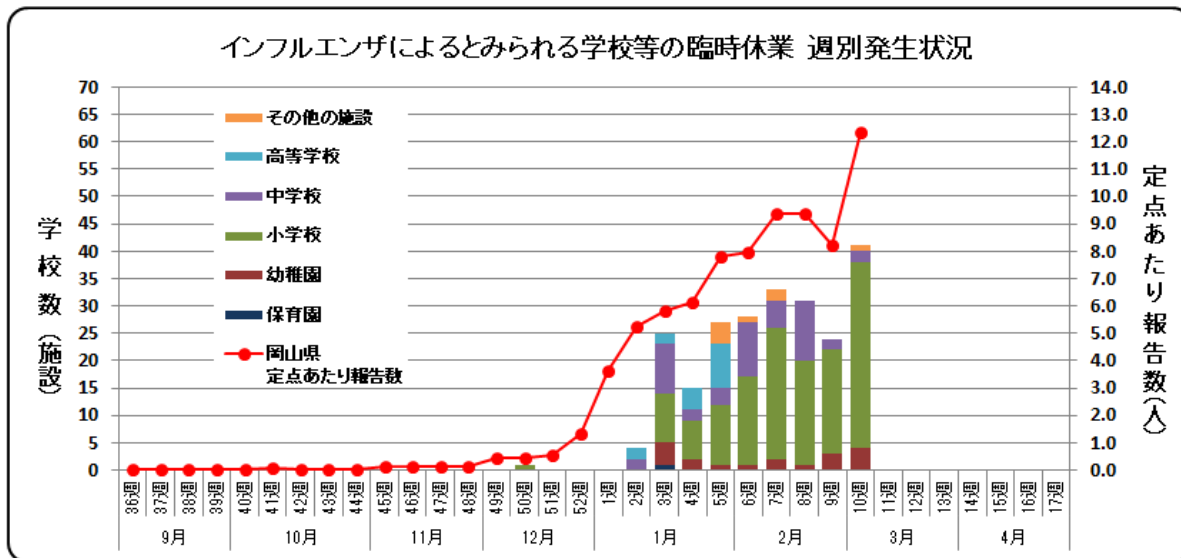


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、41 施設でありました。

【第10週 臨時休業施設数】

▽岡山市	20	▽倉敷市	5	▽津山市	2	▽玉野市	2	▽総社市	2
▽備前市	1	▽真庭市	3	▽浅口市	1	▽早島町	2	▽矢掛町	2
▽鏡野町	1								



1) 臨時休業施設数の内訳

第10週:41施設 累計:229施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	1	4	18	34	140	2	46	0	16	1	8

2) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

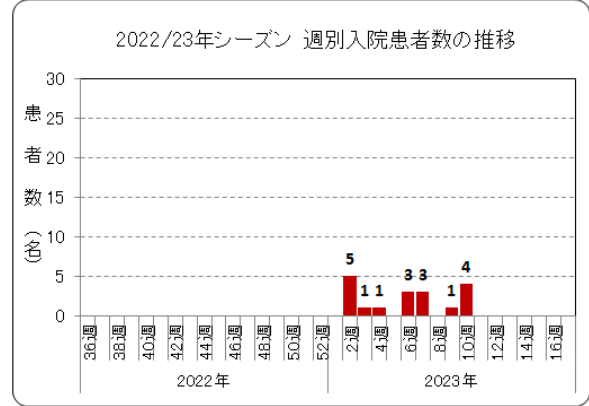
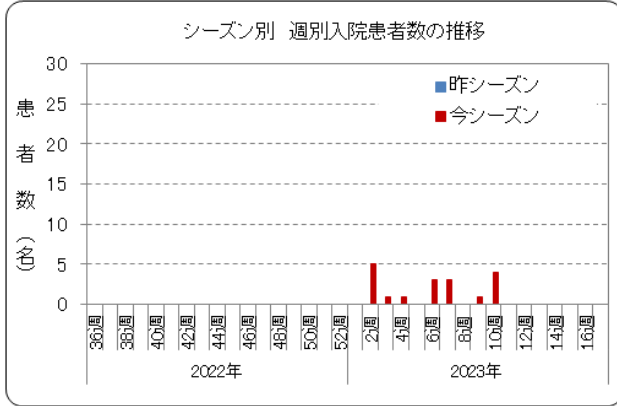
\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	540	3586	476	3120	41	229	1	4	11	43	29	182	R4.12.12
岡山市	250	1551	219	1377	20	91	0	0	1	6	19	85	R4.12.12
倉敷市	78	1013	61	885	5	71	0	1	2	7	3	63	R5.1.16
備前地域	25	112	20	96	3	13	0	1	2	7	1	5	R5.1.23
備中地域	107	690	100	574	7	34	0	1	2	12	5	21	R5.1.17
備北地域	0	37	0	34	0	3	0	0	0	1	0	2	R5.2.13
真庭地域	62	62	58	58	3	3	1	1	2	2	0	0	R5.3.6
美作地域	18	121	18	96	3	14	0	0	2	8	1	6	R5.1.17

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、4 名（1～4 歳 1 名、5～9 歳 1 名、10～14 歳 1 名、50～59 歳 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 10 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数		1	1	1					1				4
ICU 入室 *									1				1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *			1										1
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず		1		1									2

\* 重複あり

【2022 年 9 月 5 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数	2	4	3	2					4	1		2	18
ICU 入室 *									1				1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *									1				1
頭部 MRI 検査(予定含) *		2	1										3
脳波検査 (予定含) *		1											1
いずれにも該当せず	2	2	2	2					2	1		2	13

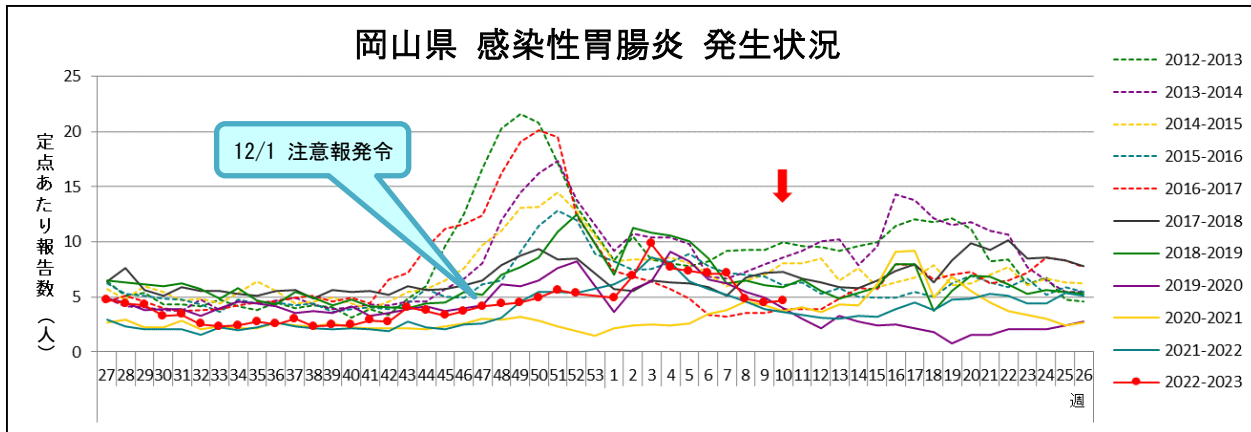
\* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2023年 第10週 (3月6日～3月12日)

岡山県は『食中毒(ノロウイルス)注意報』発令中です

岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で250名(定点あたり4.63人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

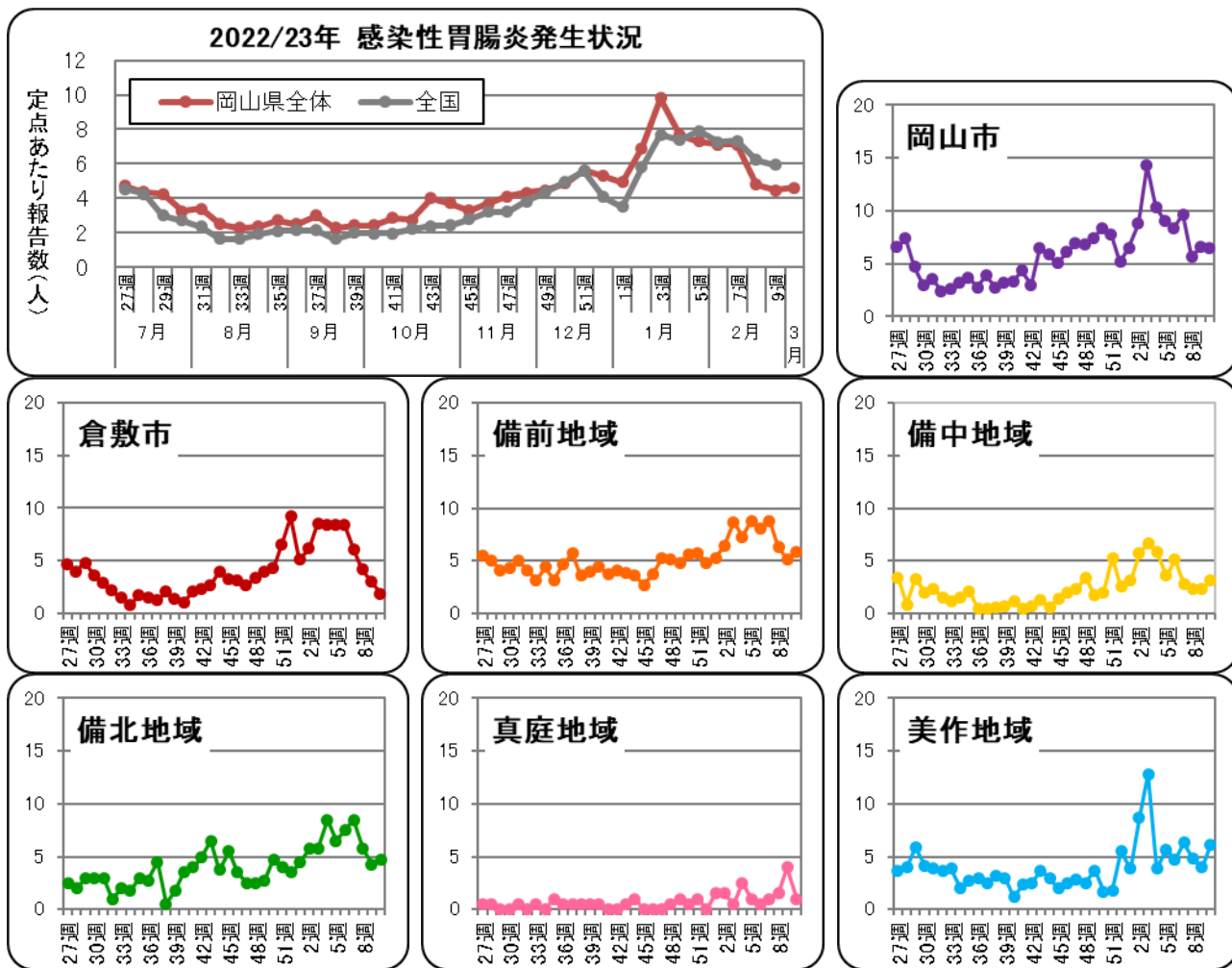


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

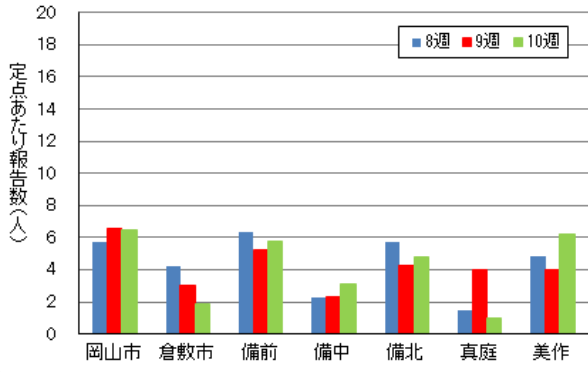
感染性胃腸炎は、県全体で250名の報告があり、前週とほぼ同数でした(定点あたり4.48→4.63人)。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、おう吐物・下痢便の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めましょう。特に乳幼児や高齢者は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

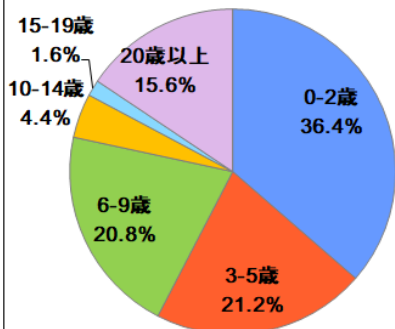
◆地域別・年齢別発生状況



岡山県 感染性胃腸炎地域別発生状況



感染性胃腸炎 年齢別割合 (第10週)



岡山県地区別 感染性胃腸炎感染症マップ 2023年10週



全県レベル1

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらるまでレベル3が継続されます。

小児科定点（54 定点医療機関）からの報告によると、2023年第10週の年齢別割合では、0-2歳36.4%、3-5歳21.2%、6-9歳20.8%の順に多く報告されています。

## ◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

### <予 防 方 法>

#### 1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

#### 2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。これらを処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

#### 3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水処理または**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、熱水処理または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

#### 4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85~90℃で90秒間以上)

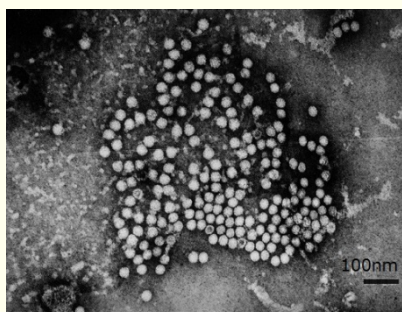
二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。また、アルコールの効果は低いとされています。

### [○ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

#### ◆ ロタウイルスにも気をつけましょう ◆

### [○ロタウイルス \(厚生労働省\)](#)



ノロウイルスの電子顕微鏡写真  
岡山県環境保健センターウイルス科 画像



© 岡山県「ももっち」



保健所別報告患者数 2023年 10週(定点把握)

( 2023/03/06～2023/03/12 )

2023年3月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1037	12.35	538	24.45	215	13.44	82	5.47	139	11.58	38	6.33	12	4.00	13	1.30
RSウイルス感染症	17	0.31	4	0.29	5	0.45	-	-	3	0.43	3	0.75	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	13	0.24	2	0.14	-	-	7	0.70	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	0.20	3	0.21	2	0.18	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	250	4.63	91	6.50	21	1.91	58	5.80	22	3.14	19	4.75	2	1.00	37	6.17
水痘	4	0.07	2	0.14	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	11	0.20	5	0.36	5	0.45	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	2	0.50	2	2.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2023年 10週(発生レベル設定疾患)

( 2023/03/06～2023/03/12 )

2023年3月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1037	12.35	538	24.45	215	13.44	82	5.47	139	11.58	38	6.33	12	4.00	13	1.30
咽頭結膜熱	13	0.24	2	0.14	-	-	7	0.70	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	0.20	3	0.21	2	0.18	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	250	4.63	91	6.50	21	1.91	58	5.80	22	3.14	19	4.75	2	1.00	37	6.17
水痘	4	0.07	2	0.14	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	2	0.50	2	2.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2023年 第10週 2023/03/06～2023/03/12 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	1037	2	9	31	53	71	100	118	144	70	61	44	175	25	28	51	26	7	11	6	5

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	17	1	3	8	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	13	-	1	1	5	2	-	1	1	1	1	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	-	-	2	-	2	1	-	3	1	1	-	1	-	
感染性胃腸炎	250	2	7	42	40	20	17	16	22	12	11	7	11	4	39
水痘	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
手足口病	4	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	11	-	1	5	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )



# 全数把握 感染症患者発生状況

2023年 10週

分類	疾病名	2023			疾病名	2023			疾病名	2023		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	47	247	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	3	66
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	4
	デング熱	-	-	3	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	4	47
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	1	2	10	ウイルス性肝炎	-	2	1	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	1
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	-	急性脳炎	-	2	10	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	5	後天性免疫不全症候群	-	-	6
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	1	22	水痘(入院例に限る。)	-	1	4	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		2	38	197	播種性クリプトコックス症	-	-	3	破傷風	-	-	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	1	百日咳	-	6	17
風しん		-	-	1	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※	新型コロナウイルス感染症	959	80,864	392,782		-	-	-		-	-	-

※新型インフルエンザ等感染症

